國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

平成二十四年度共存学フォーラム「震災復興と文化・自然・人のつながり：岩手三陸・大槌の取り組みから」講演記録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001005

平成二十四年度共存学フォーラム
「震災復興と文化・自然・人のつながり　―岩手三陸・大槌の取り組みから―」講演記録

日　時　平成二十五年二月十七日(日)十時～十七時四十五分
場　所　國學院大學渋谷キャンパスＡＭＣ棟一階常磐松ホール

第一部　基調講演　　司会＝茂木栄（國學院大學神道文化学部教授）
・基調講演一＝小島美子（国立歴史民俗博物館名誉教授）「震災復興に伝統文化の力をどう活かすか？―郷土芸能と人々のくらし―」
・基調講演二＝佐々木健（岩手県大槌町教育委員会生涯学習課長）「「逆境に立ち向かう」―震災からの復興に自然と歴史と文化を―」

第二部　個別報告　　司会＝黒崎浩行（國學院大學神道文化学部准教授）
・個別報告一＝十王舘勲（大槌稲荷神社禰宜）「避難所の口伝とともに」
・個別報告二＝佐藤一伯（御嶽山御嶽神明社禰宜）「後方支援者としての神社・神職」
・個別報告三＝吉田律子（真宗大谷派僧侶、ＮＰＯ法人サンガ岩手代表）「つくる、つながる、つどう―明日への一歩、希望の針―」
・個別報告四＝小野仁志（陸前高田まちづくり協働センター長）「地域の自立を支える中間支援とは？」

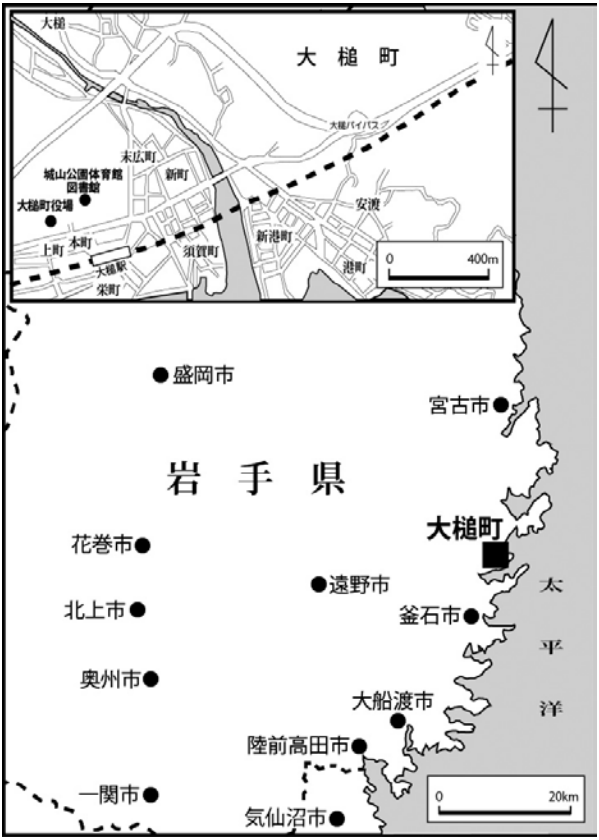
・コメント＝板井正斉（皇學館大学現代日本社会学部准教授）「支援する側・受ける側の境界を超えるとは」
・全体討論　　司会＝黒崎浩行（國學院大學神道文化学部准教授）・古沢広祐（國學院大學経済学部教授）

本記録は、平成二十五年二月十七日(日)に國學院大學渋谷キャンパスＡＭＣ棟一階常磐松ホールにて開催された、平成二十四年度共存学フォーラム（國學院大學研究開発推進センター「地域・渋谷から発信する共存社会の構築」研究事業）の基調講演・個別報告・全体討論の内容をそれぞれ収録する。

本フォーラムは、多くの尊い命が失われた平成二十三年三月十一日の東日本大震災への鎮魂の思いを胸に秘めながら、被災地で進められている復興への歩みを焦点として、「震災復興と文化・自然・人のつながり」と題して開催された。

被災地においては、瓦礫の撤去・道路の復旧・仮設住宅などハード面の計画が進められる一方で、人々の暮らし・コミュニティ・文化面の再建も重要視されており、とりわけ豊かな自然・伝統文化を育んできた東北地方・三陸一帯は、祭りや神楽などの郷土芸能が人々の日々の暮らしと深く結び付き継承されてきた地域であった。そうした文化的な力が改めて震災復興の過程において再生の原動力として見直されてきたといえる。また防災面では、かろうじて被災を免れた神社や寺院などの施設が避難所としての機能を果たしたことや、そのコミュニティ・地域文化の結節点としての役割を再評価される動きがある。

こうした実状に着目して、本フォーラムでは、第一部は伝統文化・歴史・自然に基づいた東北復興の可能性についての基調講演、第二部は復興に向けた具体的な取り組みについて岩手県大槌町の事例を中心とする個別報告がおこなわれ、最後に全体討論における活発な議論が展開された。本フォーラムを通して、今なお震災復興の途上にある人々

の暮らし・コミュニティ・文化のあり方を改めて考える機会となり、同時に今後の共存学における課題を再検討する機会ともなった。当日お越し頂いた講師の皆様、会場にいらっしゃった皆様一人ひとりに、この場を借りて深く御礼申し上げたい。

■岩手県大槌町周辺地図